

氏名	森村 修 (教授、准教授、専任講師)
こんな研究をしています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現代哲学（現象学・現代フランス哲学）：おもにフッサール現象学ならびにフーコー、ドゥルーズ、デリダを中心とした現代フランス哲学。</li> <li>・現代倫理学：「ケアの倫理」を中心とした応用倫理学</li> <li>・近代日本哲学：いわゆる「京都学派」を中心とした日本哲学</li> <li>・美学・芸術哲学：現代アートを中心としたアート／デザインの哲学・美学</li> </ul>
こんな成果を挙げています	<ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000年）</li> <li>(2) 森村修『ケアの形而上学』（大修館書店、2020年）</li> <li>(3) 森村修「「社会政治的トラウマの」の倫理」（牧野英二他編『哲学の変換と知の越境』所収、法政大学出版局、2019年）</li> <li>(4) 森村修「アマルティア・セン—自由と正義のアイデア」（榎木玲子/法政大学国際文化学部編『〈境界〉を生きる思想家たち』所収、法政大学出版局、2016年）</li> <li>(5) 森村修「西田幾多郎の「グラマトロジー」—〈書〉の美学=感性学〔エステティクス〕の可能性」（東北大学哲学研究室編『思索』所収、2021年）</li> </ol>
ほかに、こんなジャンルに関心をもっています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学（西洋・日本哲学など）／倫理学（生命倫理学・環境倫理学・情報倫理学など応用倫理学も含む）、美学（アートの哲学思想など）の専門領域</li> <li>・社会哲学・社会思想や政治哲学・政治思想、経済哲学・経済思想などの近隣領域</li> <li>・社会福祉・医療／看護／ケアにおける理論的領域</li> </ul>
こんな授業を行っています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2022年度の国際文化学部のゼミ（演習）では、「Socially Engaged Art（ソーシャリー・エンゲイジド・アート）」に関わる現代美学・芸術学・美術評論などを扱い、大学院の授業では、日本哲学（特に、九鬼周造「「いき」の構造」など）を中心に、日本哲学の主要テキストを取り上げてきた。</li> <li>・2023年度は学部ゼミでは、精神分析学（フロイトからラカン、さらにはニューロサイコアナリシスなど）を中心に「こころの哲学」に関わる思想を行う予定である。また、大学院のゼミでは、2022年度に引き続き、日本哲学関係のテキストを用いていく予定である。</li> </ul>
学会や社会でこんな活動をしています	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2023年度で、50周年を迎える「比較思想学会」の理事として活動し、日本の宗教・哲学思想と西洋哲学・思想との比較哲学研究者の育成に関わっている。</li> <li>・様々な障がいを抱える人たちとその家族の方々の活動を、アート／デザイン活動に関係づけることを中心に活動している「アートミーツケア学会」に属し、障がいを持つ人たちが過ごしやすい社会を構築するために、哲学・美学・思想的な観点から活動をしている。</li> </ul>
私が思う多文化的かつ、インターカルチュラルな人物	特に思いつきません。